

# 黒潮

和歌山県看護協会 会報

第143号

平成30年5月発行

## CONTENTS

• 通常総会開催に向けて	2
• 平成30年度 通常総会プログラム	
理事会報告	3
平成30年度重点事業	5
平成30年度収支予算書	6
平成30年度収支予算書内訳表	7
職能委員会報告	8
常任委員会報告	10
特別委員会報告	14
その他委員会報告	15
地区支部報告	16
平成30年度和歌山県看護協会役員・ 推薦委員選挙候補者一覧	20
平成31年度代議員推薦者名簿	20
平成31年度予備代議員推薦者名簿	20

表紙カット提供/広報委員



生きるを、ともに、つくる。

公益社団法人 和歌山県看護協会

発行所 公益社団法人 和歌山県看護協会

発行人 古川 紀子

〒642-0017 海南市南赤坂17番地 TEL.073-483-1005 FAX.073-483-1266

<http://www.wakayama-kangokyokai.or.jp>

### 和歌山県看護協会会員数

平成30年5月15日現在 登録者数

会員総数	5,874名
名誉会員	1名
保健師	132名
助産師	210名
看護師	5,358名
准看護師	173名

## 平成30年度和歌山県看護協会通常総会開催に向けて

公益社団法人 和歌山県看護協会 会長 古川 紀子



会員の皆様には、益々ご健勝でご活躍のこととお慶び申し上げます。

平素より看護協会事業に対し、ご支援とご協力をいただいておりますことに深く感謝申し上げます。さて、新年度を迎え、平成30年度和歌山県看護協会通常総会を開催する運びとなりました。

和歌山県看護協会は公益社団法人として7年目を迎え、「県民の健康な生活の実現」に向けて更なる事業の充実が求められています。

また、和歌山県では、急激な少子高齢社会に対応するために、「和歌山県地域医療構想」が策定されました（平成28年5月）。

県民すべての願いである、健やかに生まれ・育ち、住み慣れた地域でその人らしくいきいきと安心して生活できるために、在宅医療を含めた地域包括ケア体制の構築が進められています。

このような状況の中、看護職能団体である和歌山県看護協会は、社会の変革とともになお一層重要性を増す看護の役割を認識し、行政はじめ関係団体との連携を密にし、事業の推進に取り組んでまいります。

今年度も、「看護の質向上」、「看護職が生涯を通して安心して働き続けられる環境づくり」、「人々のニーズに応える看護領域の開発・展開」を使命として、6つの重点事業を中心に時代のニーズに基づいた事業計画を策定いたしました。

「看護実践能力及び専門性の強化」については、新人を育成する教育、ジェネラリストを育成する教育、管理者を育成する教育、認定看護管理者教育、教育者・研究者を育成する教育等を実施し、看護職が十分に看護力を発揮できるようにレベルアップを図ってまいります。

また、地域包括ケアシステムの構築に向けて、「病院完結型」から「地域完結型」への転換が図られています。

当協会では、県受託事業として訪問看護入門研修、保健師研修、退院支援看護師研修等を実施し、受講者がこれまで以上に身近で頼りになる存在として、質が

高く、満足できる看護を「いつでも・どこでも」提供できるようにしていきたいと考えております。

「看護職が働き続けられる環境づくり」については、今年度も看護職のWLBワークショップ事業を継続的に取り組むこととし、労働環境改善に繋げてまいります。

平成27年10月から実施している、医療機関等を離職する看護職員のナースセンターへの届け出制度を更に推進してまいります。

また、潜在看護職員復職支援研修、ハローワークと連携した仕事相談、ナースセンターでの採血の技術演習を実施するなど、ナースセンターを看護職確保・定着の総合拠点として、行政や労働局、ハローワーク等と連携しながら機能強化を図ってまいります。

さらに、認定看護管理者会の活動として、昨年引き続き看護管理者による各病院への「出前研修講座」を8コース実施いたします。各職能の実践能力向上と体制整備に向けては、保健師の専門性及びネットワークおよび組織力強化を図り、保健師の資質向上と連携強化、また、「助産師クリニカルラダー：CLoCMiP」を積極的に活用し、助産実践能力強化に努めてまいります。加えて、切れ目のない妊娠・出産・子育て支援のため、地域との連携体制の強化を図ってまいります。

ところで、このほど広報活動強化の観点から、県の花である梅をモチーフとしたシンボルマークを、またタグライン（スローガン）として、「生きるを、ともに、つくる。公益社団法人和歌山県看護協会」を作成しました。加えてホームページの更なる充実を図り、看護職や県民の方々への情報をタイムリーに発信して参りたいと考えております。

平成30年度も役員、各地区支部、各委員会をはじめ、各関係機関、行政、会員の皆様と共に、安全で良質な看護の提供と、看護職がいきいきと働き続けられる職場づくりを目指して、積極的に活動して参りますので、引き続き協会運営にご支援・ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。



## 平成 30 年度 和歌山県看護協会

# 通常総会 プログラム

- 日程：平成 30 年 6 月 10 日（日）
- 場所：和歌山県民文化会館 小ホール

12:20	開 場
12:50	オリエンテーション
13:00	開 会 物故会員への黙禱 会長挨拶 来賓祝辞 祝電披露 和歌山県看護協会会長表彰 (休憩)
13:50	議長団選出 議事録署名人選出 平成 29 年度総会議事録朗読
14:00	報告事項 理事会報告 平成 29 年度事業報告 職能委員会報告 地区支部報告 常任委員会・特別委員会報告 平成 30 年度重点事業並びに事業計画 平成 30 年度収支予算 議決事項

**第一号議案** 平成 30 年度役員および推薦委員並びに  
平成 31 年度公益社団法人日本看護協会代議員及び  
予備代議員の選出について

**第二号議案** 平成 29 年度決算報告並びに監査報告（案）

\* 進行上の都合により、時間が変更となる場合があります。

16:30	閉 会 新役員紹介 旧役員への謝辞 旧役員代表者挨拶 看護協会歌合唱
-------	--

## 報 告 事 項 理 事 会 報 告

### I 理事会等開催状況

#### 1. 理事会

回	開 催 日	時 間	出 席 者	
			理事	監事
1	平成 29 年 4 月 26 日（水）	13:00～15:00	18	1
2	平成 29 年 5 月 25 日（木）	13:00～14:30	18	2
3	平成 29 年 6 月 21 日（水）	13:00～15:00	16	1
4	平成 29 年 8 月 23 日（水）	13:00～16:00	18	2
5	平成 29 年 12 月 6 日（水）	13:00～16:30	15	1
6	平成 30 年 3 月 14 日（水）	13:00～16:30	17	2

#### 2. 理事・各委員長・地区支部長合同開催状況

回	開 催 日	時 間	出 席 者		
			理事	監事	委員長
1	平成 29 年 5 月 25 日（木）	14:00～15:30	18	2	11
2	平成 29 年 6 月 21 日（水）	15:00～16:30	18	2	11

#### 3. 代議員研修会開催状況

回	開 催 日	出 席 者			
1	平成 29 年 5 月 10 日（水）	代議員	6	予備代議員	4

### II 理事会開催

#### 第 1 回理事会 平成 29 年 4 月 26 日（水）

##### 【協議事項】

- 平成 28 年度 事業実施報告（案）について
- 平成 29 年度 和歌山県看護協会役員・推薦委員候補者（案）について  
平成 30 年度 日本看護協会 代議員・予備代議員選出（案）について
- 常任・特別・その他の委員（案）について  
常任・特別・その他の委員会諮問事項について

##### 4. その他

以上 承認

##### 【報告事項】

- 平成 28 年度関係団体参加状況など
- 施設会員代表者（地区別）会議の報告
- 会員数について
- その他

第2回理事会 平成29年5月25日(木)

【協議事項】

- 1. 平成28年度決算報告について
- 2. その他

以上 承認

【報告事項】

- 1. 日本看護協会理事会報告について
- 2. 県内関連団体会議参加報告について
- 3. 会員数について
- 4. その他

\*\*\*\*\*

第3回理事会 平成29年6月21日(水)

【協議事項】

- 1. 役員の選任について
- 2. 円滑な事業運営について  
(理事会などの年間計画について)
- 3. ナース章について
- 4. その他

以上 承認

【報告事項】

- 1. 平成29年度事業計画について
- 2. 日本看護協会理事会報告
- 3. 県内関連団体会議参加報告
- 4. 会員数について
- 5. その他

\*\*\*\*\*

第4回理事会 平成29年8月23日(水)

【協議事項】

- 1. ナース章の推薦について

以上 承認

【報告事項】

- 1. 日本看護協会理事会報告について
- 2. 担当理事報告
- 3. 県内関連団体会議参加報告
- 4. 建設負担金納入状況
- 5. 会員数について
- 6. その他

\*\*\*\*\*

第5回理事会 平成29年12月6日(水)

【協議事項】

- 1. 和歌山県看護協会のロゴマークについて
- 2. 建設負担金について

以上 承認

【報告事項】

- 1. 日本看護協会理事会報告
- 2. 日本看護協会主催会議報告
- 3. 県内関連団体会議参加報告
- 4. 平成30年度和歌山県看護協会会長表彰について
- 5. 会員数について
- 6. その他

\*\*\*\*\*

第6回理事会 平成30年3月14日(水)

【協議事項】

- 1. 看護協会会長表彰について
- 2. 平成30年度重点事業概要(案)及び平成30年度事業計画(案)について
- 3. 平成30年度教育計画概要(案)について
- 4. 平成30年度収支予算(案)及び資金調達、設備投資の見込み(案)について
- 5. その他

以上 承認

【報告事項】

- 1. 日本看護協会理事会報告
- 2. 日本看護協会主催会議報告
- 3. 担当理事報告
- 4. 県内関連団体会議参加報告
- 5. 和歌山県看護協会のコーポレートアイデンティティについて
- 6. 会員数について
- 7. その他

\*\*\*\*\*

# 東洋羽毛の 無料!! コーヒーサービス



東洋羽毛では、お世話になっている方々に無料コーヒーサービスを行っております。院内での師長会議・主任会議・ラダー研修会・研究発表会・勉強会等、地域や支部での看護部長会・看護研修会等での休憩時にホッと一息つきませんか？

どんな所でも無料で出張サービスさせていただきます



0120-88-2104



〔 片隅にちょっとだけ、企業PRとしてお布団を置かせて頂いております。ご購入にも応じます。 〕

東洋羽毛関西販売株式会社

お気軽に御利用ください。

# 平成30年度重点事業

和歌山県では、急激な少子高齢社会に向け、「和歌山県地域医療構想」が策定されました。すべての県民に安心・安全な医療の提供、また、住み慣れた地域でその人らしくいきいきと安心して生活できるために、在宅医療を含めた地域包括ケア体制の構築が進められております。このような状況の中、看護職はどの領域においても役割発揮が求められており、大きな期待が寄せられています。

和歌山県看護協会は、平成24年度より公益社団法人となり今年で7年目を迎えました。定款4条にそって、本協会の理念である「県民の健康な生活の実現」を目指して①看護の質の向上、②看護職がいきいきと働き続けられる環境づくり、③看護領域の開発・展開を使命に掲げています。

今年度も、公益社団法人として、県民の期待に応えられる看護の実現をめざして、使命・活動理念を軸として、次の6項目を重点事業として掲げ、活動を展開してまいります。

1. 看護実践能力及び専門性の強化
2. 働き続けられる環境づくりと人材確保定着の推進
3. 県民の健康な生活の実現の推進
4. 地域包括ケアシステムの構築と推進
5. 保健師活動の体制整備と機能強化
6. 助産実践能力強化とその体制整備

## 重点事業

### 1. 看護実践能力及び専門性の強化

看護職は、生涯にわたり自己の能力開発に努め、看護の質の向上を図ることが責務です。

看護専門職能団体としての役割として、生涯教育を支援し、看護の質の向上を図ることは、協会事業の柱でもあります。

今年度も、看護職一人ひとりが自己研鑽して看護の力を発揮できるよう、教育計画に基づいて新人看護職員研修をはじめ、看護職のキャリア開発支援を推進し、看護実践能力の強化に努めます。

### 2. 働き続けられる環境づくりと人材確保定着の推進

団塊の世代が後期高齢者となる2025年に向け、看護を取り巻く環境も「治す医療」から「生活を支える医療」へと大きな転換期にあり、人材確保は喫緊の課題です。

「看護師等の人材確保の促進に関する法律」の一部改正により、平成27年10月から、看護職が離職等の際に都道府県ナースセンターに届出することを努力義務とする制度が開始されました。また、身近な場所で、離職者の届出の促進と就労相談を、ハローワークと連携し「ナースのお仕事相談」を月4回開催するとともに、ナースセンターを看護職の確保・定着の総合拠点としての役割を図ってまいります。

職場づくり、人づくり、ネットワークづくりに向けて、行政、労働局、ハローワーク等、各関係団体と連携して、ナースセンター事業を強化し、働き続けられる環境づくりと確保・定着の推進に努めます。

また、ワーク・ライフ・バランス推進事業も積極的に推進してまいります。

### 3. 県民の健康な生活の実現の推進

看護研修センターを拠点に「県民の健康な生活」の実現に向けて、看護週間や老人月間、「まちの保健室」等を開催し、県民の健康増進に努めています。

今年度も、行政や関連団体と連携しながら事業を推進してまいります。

同時に、和歌山県看護協会への理解を深めて頂くために、様々な機会を捉えて情報発信に努め、県民の健康な生活の実現を推進してまいります。

### 4. 地域包括ケアシステムの構築と推進

少子高齢多死社会の到来に伴い、要介護高齢者や認知症者の増加等により、介護・福祉施設や在宅療養の場における看護職への期待は拡大の一途を辿っています。

和歌山県は高齢化も全国を上回る速さで進行し、平成29年1月1日現在全国第7位で超高齢社会を迎えています。

看護協会では、在宅領域のネットワークづくりや、人材の確保・育成及び看護の質向上に向けて「退院支援看護師研修」、「訪問看護入門研修」、「保健師研修（中堅期）」を実施してまいります。

今年度も看護師職能委員会Ⅰ、Ⅱ、和歌山県訪問看護ステーション連絡協議会、行政及び関係機関等と連携しながら在宅看護、介護施設の看護の機能を強化し、療養を支える訪問看護・介護領域における看護の質の向上並びに人材確保に努めてまいります。

### 5. 保健師活動の体制整備と機能強化

保健師は個人及び地域全体の健康増進や疾病予防を図るため、平成25年4月に示された保健師活動指針に基づき保健活動を推進していく役割があります。

また、生活習慣病予防や身体維持の機能向上をはかり健康寿命の延伸に向けた取り組みや住み慣れた地域でその人らしく暮らしていける地域包括ケアシステムを推進してまいります。

保健師職能委員会では、これらを実現していくために、保健師の専門性の強化、ネットワークづくり、保健師職能の組織力アップを目指して保健師の連携強化と課題解決、保健師活動指針の普及に取り組んできました。

今年度においても、職能集会、保健指導ミーティング、保健師交流会等を継続し、保健師の資質向上と連携強化に努めてまいります。

### 6. 助産実践能力強化とその体制整備

平成25年より始まった助産習熟段階（クリニカルラダー：CLoCMIP）に基づき自律して助産ケアが提供できるアドバンス助産師が和歌山県において125名誕生しています。

切れ目ない妊娠・出産・子育て支援を図るために地域との連携体制の周知と推進に努めてまいります。

そして安全で安心な出産環境の体制整備と院内助産・助産師外来ガイドラインの周知・普及に努め、それを担う助産師の実践能力強化に努めてまいります。

今年度においても、職能集会、産科管理者交流会、助産師研修会、思春期教室等を継続し、専門性の強化と連携体制整備に努めてまいります。

# 平成 30 年度 収支予算書

平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減	科 目	当年度	前年度	増 減
<b>I 一般正味財産増減の部</b>				支 払 手 数 料	150,000	150,000	0
1. 経常増減の部				委 託 費	1,400,000	1,500,000	△ 100,000
(1) 経常収益				会 議 費	400,000	500,000	△ 100,000
特定資産運用益				広 報 啓 発 費	500,000	1,000,000	△ 500,000
特定資産受取利息	1,000	5,000	△ 4,000	調 査 研 究 費	0	10,000	△ 10,000
受取入金				図 書 整 備 費	300,000	600,000	△ 300,000
受 取 入 会 金	4,000,000	4,000,000	0	情 報 処 理 費	350,000	200,000	150,000
施 設 整 備 積 立 金	0	8,000,000	△ 8,000,000	雑 費	60,000	60,000	0
受取入金合計	4,000,000	12,000,000	△ 8,000,000	事業費計	80,452,000	85,766,000	△ 5,314,000
受取会費				管理費			
正 会 員 受 取 会 費	56,500,000	55,000,000	1,500,000	役 員 報 酬	6,742,000	5,260,000	1,482,000
事業収益				給 料 手 当	6,643,000	4,670,000	1,973,000
受 取 受 講 料	26,500,000	26,000,000	500,000	賞 与	2,262,000	3,050,000	△ 788,000
受 取 会 館 賃 貸 料	30,000	30,000	0	退 職 給 付 費 用	375,000	337,000	38,000
受 取 福 祉 年 金 事 務 費	170,000	180,000	△ 10,000	法 定 福 利 費	1,570,000	1,800,000	△ 230,000
受 取 手 数 料	400,000	300,000	100,000	福 利 厚 生 費	210,000	150,000	60,000
受 取 業 務 受 託 運 営 協 力 金	100,000	0	100,000	旅 費 交 通 費	1,300,000	1,000,000	300,000
事業収益計	27,200,000	26,510,000	690,000	通 信 運 搬 費	700,000	600,000	100,000
受取補助金等				減 価 償 却 費	3,250,000	2,500,000	750,000
日本看護協会受取助成金	7,900,000	7,900,000	0	消 耗 什 器 備 品 費	200,000	500,000	△ 300,000
団 体 受 取 助 成 金	50,000	50,000	0	消 耗 品 費	1,000,000	1,200,000	△ 200,000
受取補助金等計	7,950,000	7,950,000	0	修 繕 費	500,000	1,500,000	△ 1,000,000
受取受託金				印 刷 製 本 費	1,700,000	1,800,000	△ 100,000
日本看護協会受取業務受託金	1,130,000	910,000	220,000	光 熱 水 料 費	600,000	660,000	△ 60,000
和 歌 山 県 受 取 委 託 費	17,053,000	17,006,000	47,000	賃 借 料	300,000	200,000	100,000
受取受託金計	18,183,000	17,916,000	267,000	保 険 料	120,000	150,000	△ 30,000
受取寄付金				諸 謝 金	1,000,000	1,500,000	△ 500,000
受 取 寄 付 金	700,000	700,000	0	租 税 公 課	600,000	1,500,000	△ 900,000
雑収益				支 払 負 担 金	280,000	0	280,000
受 取 利 息	1,000	2,000	△ 1,000	支 払 手 数 料	200,000	150,000	50,000
雑 収 益	60,000	60,000	0	委 託 費	1,000,000	1,300,000	△ 300,000
雑収益計	61,000	62,000	△ 1,000	会 議 費	120,000	200,000	△ 80,000
経常収益計	114,595,000	120,143,000	△ 5,548,000	諸 会 費	70,000	80,000	△ 10,000
(2) 経常費用				情 報 処 理 費	350,000	800,000	△ 450,000
事業費				渉 外 費	150,000	150,000	0
役 員 報 酬	8,331,000	6,700,000	1,631,000	会 館 委 託 料	2,800,000	2,700,000	100,000
給 料 手 当	21,870,000	13,290,000	8,580,000	広 報 啓 発 費	50,000	250,000	△ 200,000
賞 与	2,599,000	6,590,000	△ 3,991,000	雑 費	51,000	50,000	1,000
臨 時 雇 賃 金	0	8,350,000	△ 8,350,000	管理費計	34,143,000	34,057,000	86,000
退 職 給 付 費 用	822,000	826,000	△ 4,000	経常費用計	114,595,000	119,823,000	△ 5,228,000
法 定 福 利 費	4,230,000	4,000,000	230,000	当期経常増減額	0	320,000	△ 320,000
福 利 厚 生 費	0	150,000	△ 150,000	2. 経常外増減の部			
報 償 費	0	150,000	△ 150,000	(1) 経常外収益			
旅 費 交 通 費	10,500,000	11,000,000	△ 500,000	経常外収益計	0	0	0
通 信 運 搬 費	1,700,000	2,000,000	△ 300,000	(2) 経常外費用			
減 価 償 却 費	3,250,000	2,500,000	750,000	経常外費用計	0	0	0
消 耗 什 器 備 品 費	300,000	1,000,000	△ 700,000	当期経常外増減額	0	0	0
消 耗 品 費	2,000,000	4,500,000	△ 2,500,000	当期一般正味財産増減額	0	320,000	△ 320,000
修 繕 費	200,000	250,000	△ 50,000	一般正味財産期首残高	574,544,800	574,224,800	320,000
印 刷 製 本 費	4,000,000	4,500,000	△ 500,000	一般正味財産期末残高	574,544,800	574,544,800	0
光 熱 水 料 費	1,700,000	2,340,000	△ 640,000	<b>II 指定正味財産増減の部</b>			
賃 借 料	1,100,000	1,300,000	△ 200,000	当期指定正味財産増減額	0	0	0
保 険 料	40,000	250,000	△ 210,000	指定正味財産期首残高	0	0	0
諸 謝 金	13,000,000	12,000,000	1,000,000	指定正味財産期末残高	0	0	0
租 税 公 課	1,600,000	50,000	1,550,000	<b>III 正味財産期末残高</b>	574,544,800	574,544,800	0
支 払 負 担 金	50,000	0	50,000				



# 平成 30 年度 収支予算書内訳表

平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日まで

(単位：円)

科 目	公益目的 事業	収益事業 等会計	法人会計	合 計	科 目	公益目的 事業	収益事業 等会計	法人会計	合 計
<b>I 一般正味財産増減の部</b>					支払手数料	150,000	0	0	150,000
1. 経常増減の部					委託費	1,400,000	0	0	1,400,000
(1) 経常収益					会議費	400,000	0	0	400,000
特定資産運用益					広報啓発費	500,000	0	0	500,000
特定資産受取利息	0	0	1,000	1,000	調査研究費	0	0	0	0
受取入金					図書整備費	300,000	0	0	300,000
受取入金	0	0	4,000,000	4,000,000	情報処理費	350,000	0	0	350,000
施設整備積立金	0	0	0	0	雑費	60,000	0	0	60,000
受取入金計	0	0	4,000,000	4,000,000	事業費計	80,312,000	140,000	0	80,452,000
受取会費					管理費				
正会員受取会費	0	0	56,500,000	56,500,000	役員報酬	0	0	6,742,000	6,742,000
事業収益					給料手当	0	0	6,643,000	6,643,000
受取受講料	26,500,000	0	0	26,500,000	賞与	0	0	2,262,000	2,262,000
受取会館賃貸料	0	30,000	0	30,000	退職給付費用	0	0	375,000	375,000
受取福祉年金事務費	0	0	170,000	170,000	法定福利費	0	0	1,570,000	1,570,000
受取手数料	400,000	0	0	400,000	福利厚生費	0	0	210,000	210,000
受取業務受託運営協力金	100,000	0	0	100,000	旅費交通費	0	0	1,300,000	1,300,000
事業収益計	27,000,000	30,000	170,000	27,200,000	通信運搬費	0	0	700,000	700,000
受取補助金等					減価償却費	0	0	3,250,000	3,250,000
日本看護協会受取助成金	7,900,000	0	0	7,900,000	消耗什器備品費	0	0	200,000	200,000
団体受取助成金	50,000	0	0	50,000	消耗品費	0	0	1,000,000	1,000,000
受取補助金等計	7,950,000	0	0	7,950,000	修繕費	0	0	500,000	500,000
受取受託金					印刷製本費	0	0	1,700,000	1,700,000
日本看護協会受取業務受託金	0	0	1,130,000	1,130,000	光熱水料費	0	0	600,000	600,000
和歌山県受取委託費	17,053,000	0	0	17,053,000	賃借料	0	0	300,000	300,000
受取受託金計	17,053,000	0	1,130,000	18,183,000	保険料	0	0	120,000	120,000
受取寄付金					諸謝金	0	0	1,000,000	1,000,000
受取寄付金	0	0	700,000	700,000	租税公課	0	0	600,000	600,000
雑収益					支払負担金	0	0	280,000	280,000
受取利息	0	0	1,000	1,000	支払手数料	0	0	200,000	200,000
雑収益	0	0	60,000	60,000	委託費	0	0	1,000,000	1,000,000
雑収益計	0	0	61,000	61,000	会議費	0	0	120,000	120,000
経常収益計	52,003,000	30,000	62,562,000	114,595,000	諸会費	0	0	70,000	70,000
(2) 経常費用					情報処理費	0	0	350,000	350,000
事業費					渉外費	0	0	150,000	150,000
役員報酬	8,331,000	0	0	8,331,000	会館委託料	0	0	2,800,000	2,800,000
給料手当	21,870,000	0	0	21,870,000	広報啓発費	0	0	50,000	50,000
賞与	2,599,000	0	0	2,599,000	雑費	0	0	51,000	51,000
臨時雇賃金	0	0	0	0	管理費計	0	0	34,143,000	34,143,000
退職給付費用	822,000	0	0	822,000	経常費用計	80,312,000	140,000	34,143,000	114,595,000
法定福利費	4,230,000	0	0	4,230,000	当期経常増減額	△ 28,309,000	△ 110,000	28,419,000	0
福利厚生費	0	0	0	0	2. 経常外増減の部				
報償費	0	0	0	0	(1) 経常外収益				
旅費交通費	10,500,000	0	0	10,500,000	経常外収益計	0	0	0	0
通信運搬費	1,700,000	0	0	1,700,000	(2) 経常外費用				
減価償却費	3,250,000	0	0	3,250,000	経常外費用計	0	0	0	0
消耗什器備品費	300,000	0	0	300,000	当期経常外増減額	0	0	0	0
消耗品費	2,000,000	0	0	2,000,000	当期一般正味財産増減額	△ 28,309,000	△ 110,000	28,419,000	0
修繕費	200,000	0	0	200,000	一般正味財産期首残高	287,529,418	1,172,807	285,842,575	574,544,800
印刷製本費	4,000,000	0	0	4,000,000	一般正味財産期末残高	259,220,418	1,062,807	314,261,575	574,544,800
光熱水料費	1,700,000	0	0	1,700,000	<b>II 指定正味財産増減の部</b>				
賃借料	1,100,000	0	0	1,100,000	当期指定正味財産増減額	0	0	0	0
保険料	40,000	0	0	40,000	指定正味財産期首残高	0	0	0	0
諸謝金	13,000,000	0	0	13,000,000	指定正味財産期末残高	0	0	0	0
租税公課	1,460,000	140,000	0	1,600,000	<b>III 正味財産期末残高</b>	259,220,418	1,062,807	314,261,575	574,544,800
支払負担金	50,000	0	0	50,000					

# 職能委員会報告

## 保健師職能委員会

委員長 小川 政 予

### 【活動目標】

保健師の連携強化、資質の向上を図り、いきいきと元気に活動する。

### 【活動方針】

保健師活動指針の普及、活用と会員増を図り、職能活動を活発化する。

### 【活動内容】

職能委員会：9回開催

研修・交流会

#### 1. 三職能合同研究会

日 時：平成 29 年 9 月 2 日（土）

場 所：看護研修センター 参加者 181 名

1) テーマ：和歌山看護協会の災害への取り組み

講 師：小泉 美穂 専務理事（和歌山県看護協会 災害担当）

2) テーマ：看護職に必要な災害の知識

講 師：芝田 里花 氏

（日本赤十字社和歌山医療センター 看護副部長）

#### 2. 保健師職能集会

日 時：平成 29 年 10 月 7 日（土）

場 所：看護研修センター 参加者 41 名

テーマ：「保健師のキャリアラダー・キャリアパス」

講 師：日本看護協会 常任理事 保健師職能委員長

中板 育美 氏

#### 3. 保健指導ミーティング

日 時：平成 29 年 12 月 9 日（土）

場 所：看護研修センター 参加者 25 名

テーマ：実践力UP事例検討会

・講 話 「生活習慣病予防の取り組み」

～子育て世代からの生活習慣病予防～

講 師 橋本保健所 池田 和功 所長

・事例検討

コーディネーター：和歌山県立医科大学大学院 保健看護学研

究科 山田 和子 特任教授

事例提供 ・有田市役所 坂部 美紀 保健師  
・かつらぎ町役場 檜葉 歩 保健師

#### 4. 保健師交流会

日 時：平成 30 年 2 月 3 日（土）

場 所：看護研修センター 参加者 16 名

テーマ：保健師活動の魅える化～これがわたしの歩む道～

講 話：「保健師活動の見える化」～母子保健研究の取り組み～

講 師：御坊市役所 健康福祉課 南 ふみ 統括保健師

交流会：健康教育に役立てる媒体づくり

森 桂子さんのアイデアでみんなで楽しくつくりましょう。

その他

1. 保健師の連携強化（保健師長会、市町村保健師連絡協議会、教育機関、医療機関等）

2. 会員増に関する対策

①保健師職能だよりの発行：1 回

②職能委員会報告を行い、委員会活動、協会活動を紹介する（職能委員より管内全市町村に）

3. 研修会等職能委員会活動を通して、保健師活動指針の普及・活用を図る。

### 【今後の課題】

●会員（参加者）の増加を目指して

①市町村保健師協議会総会に出席して保健師職能の紹介を行なう等の PR 活動

②保健師職能だよりの発行を継続：2 回程度

●保健指導ミーティング課題

①開催場所の検討

②県実施の行政の研修との位置づけの検討

●保健師交流会

①地域保健研究会とのコラボを検討

②開催時期の検討

## 助産師職能委員会

委員長 慈 幸 奈 美

### 【活動目標】

1. 助産師のキャリアパス / 助産実践能力習熟段階（クリニカルラダー）の普及と啓発
2. 助産実践能力向上のためのキャリアアップ研修会の開催
3. 地域母子保健活動の推進

### 【活動内容】

委員会開催 10 回

#### 1) 助産師職能集会

日 時：平成 29 年 11 月 25 日（土）13:00～16:30

場 所：和歌山県看護研修センター 研修室 2 受講者：37 名

テーマ：「助産師クリニカルラダーの活用について考えよう！」

講 師：近藤 広美氏（紀南病院）

花野 友美氏（和歌山県立医科大学附属病院）

小谷 悦子氏（日赤和歌山医療センター）

#### 2) 三職能合同研修会（再掲）

#### 3) 助産師研修会

《第 1 回》日 時：平成 29 年 8 月 5 日（土）13:00～16:30

場 所：和歌山県看護研修センター 研修室 2

①テーマ：「CTGによる胎児心拍モニタリング」受講者：72 名

講 師：城 道久氏（和歌山県立医科大学産婦人科医師）

②周産期の倫理を考える 受講者：61 名

講 師：福井 トシ子氏（日本看護協会会長）

《第 2 回》日 時：平成 30 年 2 月 17 日（土）13:00～16:30

受講者：39 名

場 所：和歌山県看護研修センター 研修室 2

テーマ：「産後ケア」

講 師：小山田 浩子氏、上田 たつえ氏、田中 陽子氏

大阪府看護協会 産前・産後ケアセンター

#### 4) 産科管理者交流会

日 時：平成 29 年 8 月 5 日（土）15:00～16:30

場 所：和歌山県看護研修センター 研修室 2

内 容：産科管理者交流会 受講者 21 名

#### 5) 近畿地区助産師職能合同研修会

日 時：平成 29 年 12 月 2 日（土）13:15～16:30

受講者：和歌山から 14 名

場 所：佛教大学 二条キャンパス

テーマ：「今こそ助産師の出番」

講 演：「アドバンス助産師に期待すること」

講師：福井 トシ子氏（公益社団法人日本看護協会会長）

講 演：「母体感染のリスクと対応」

講師：飯野 江利子氏（大阪急性期総合医療センター）

#### 6) 思春期教育出前事業（1 回）

日 時：平成 29 年 7 月 7 日（金）10:50～11:40

受講者：中学 3 年生男女 166 名

場 所：和歌山市立高積中学校

内 容：生命の誕生、思春期における心身の変化、性感染症、赤



ちゃん抱っこ・妊婦体験

講師：稲葉、沖、片山、鳥羽

- 7) エジンバラ産後うつ質問票（EPDS）に関する実態調査を、和歌山県内の分娩取り扱い29施設にアンケート調査を実施し、24施設より回答があった。
- 8) セーフマザーフード募金の協力  
助産師研修会にて募金を呼びかけ、1,386円を日本看護協会経由でICMに送金

**【今後の課題】**

和歌山県においても妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援が必要な親子は増えてきている。すべての妊産褥婦と新生児に助産師のケアを提供するためにも、助産師外来・院内助産で支援が必要な妊産婦をスクリーニングし、支援を提供できるように、アドバンス助産師が中心となり助産実践能力を強化していく必要がある。そのためにも2018年CLOCMiP®レベルⅢ認証新規申請および2020年アドバンス助産師更新要件の最新情報を発信し、支援していく必要がある。

また他職種が連携して継続的に支援ができるような地域との連携体制の周知と推進も行っていく必要がある。

**看護師職能委員会 I**

委員長 稲垣 伊津穂

**【活動目標】**

- 1. 看護職の役割を認識し、看護実践能力の強化をはかるための支援を行う
- 2. 県看護協会を中心とした各委員会・地区支部との連携強化とネットワークづくりを行い情報交換・意見集約を行う

**【活動内容】**

委員会開催 8回

- 1. 看護師職能集会  
日時：平成29年9月2日（土）  
場所：看護研修センター 参加者 204名  
テーマ：アンガーマネジメント  
講師：井上 泰世 氏（日本アンガーマネジメント協会）
- 2. 三職能合同研修会（再掲）
- 3. 准看護師研修会  
日時：平成29年10月7日（土）時間：13:30～16:00  
場所：和歌山県看護協会 看護研修センター  
参加者：55名  
講演：ポジショニング  
講師：和歌山県立医科大学附属病院  
皮膚排泄ケア認定看護師 関 晃平氏
- 4. 看護師職能I研修会  
日時：平成29年12月10日（日）時間10:00～16:00  
場所：和歌山県看護協会 大ホール  
参加者：81名  
講演：キャリア・プラトー（停滞）を越えて  
－意思決定と動機づけ－  
講師：甲南女子大学 青山 ヒフミ氏
- 5. 看護管理者研修  
日時：平成30年1月27日（土）時間13:30～16:00  
場所：和歌山県看護協会 大ホール

- 参加者：182名  
講演：平成30年の診療報酬改定に向けて  
講師：日本看護協会 副会長 菊池 玲子氏
- 6. 男性看護師交流会  
日時：平成30年2月17日（土）時間：13:30～16:00  
場所：和歌山県看護協会 大ホール  
参加者：34名  
講演：共に考えよう！看護の明るい未来  
－男性の強みを活かして－  
講師：和歌山県立医科大学付属病院 副主査看護師  
上村 文昭氏  
済生会和歌山病院 医療安全管理室長・副看護部長  
澤田 康幸氏  
三重県こころの医療センター  
副師長・精神科認定看護師 山本 真氏
- 7. 和歌山県内における准看護師の就業の実態および准看護師へのキャリア開発支援に関する調査票の作成  
・対象：准看護師・看護管理者

**【今後の課題】**

- 1) 看護師長の支援・教育に関する取り組みの広がりにもけた情報収集と課題発見
- 2) 和歌山県内における准看護師の就業の実態及び准看護師へのキャリア開発支援に関する調査・分析

**看護師職能委員会 II**

委員長 東 るみ子

**【活動目標】**

- 1. 介護・福祉施設・在宅領域の看護の質の向上
- 2. 地域包括ケアシステムの構築に向けたネットワークづくり
- 3. 三職能の連携強化
- 4. 看護協会活動のPRを行い、施設・在宅関連の協会の増員を図り看護師職能の組織強化を図る

- 2. 地域包括ケアシステムの構築に向けたネットワークづくり  
1) 出前研修の企画・運営  
訪問看護ステーション・介護施設で働く看護職・介護職等、他職種を対象に各地区で実施。今年度は、「高齢者のフィジカルアセスメント」をテーマとした。

**【活動内容】**

- 1. 介護・福祉施設・在宅領域の看護の質の向上  
1) 「穏やかな最期を迎えるために」パンフレット作成  
2) 地区別高齢者ケア施設の看護師交流会の企画・運営  
日時：平成29年12月12日（金）13:30～16:00  
テーマ：介護事故事例から学ぶ  
講師：高村 浩 先生（高村弁護士事務所）  
参加者：34名（看護職12名、介護職員4名、その他18名）

地区	紀北・紀中 看護研修センター	紀南 ビッグU
日時	平成29年7月12日（水）	平成29年12月8日（金）
参加者数	62名	23名
参加職種	看護師50名、介護職員4名、 その他8名	看護師19名、介護職員2名、 その他1名
講師	原田 かおる先生	原田 かおる先生

3. 三職能の連携強化
  - 看護職能 I・II 集会の企画・運営（再掲）
  - 三職能集会の企画・運営（再掲）
4. 看護協会活動のPRを行い、施設・在宅関連の協会の増員を図り看護職能の組織強化を図る
  - 1) 各研修で看護協会のパンフレットを配布し入会促進を図る
  - 2) 黒潮に「看護師職能委員会活動報告」を掲載

#### 【今後の課題】

前年度から引き続き取り組んできた看取りのためのパンフレットを完成させ配布したので、今後、介護施設の看護職員等が活用できるよう研修を企画する予定である。

高齢者ケア施設看護師交流会についても会員数が少ない中で、他施設とのネットワーク作りが必要であるため次年度も開催予定とする。

今年度、和歌山県訪問看護ステーション連絡協議会との連携を考え一歩踏み出したところである。より連携を強化し、看護の質向上、看護協会会員数の増加のため、合同会議の開催、研修の企画を予定している。

## 常任委員会報告

### 社会経済福祉委員会

委員長 上本孝子

#### 【活動目標】

1. 看護職がいきいきと働き続けられる職場作りに向けて、「WLB 推進ワークショップ」の取り組みを支援する。
2. 看護職への禁煙推進活動

#### 【活動内容】

・回数：委員会開催回数 6回

1. 今年度は、WLB を重点的に取り組み、年2回開催の「WLB 推進ワークショップ」の事業運営についてWLB 推進委員会をサポートした。

4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回社会経済福祉委員会開催</li> <li>・WLB 推進委員会へ参加</li> <li>参加施設は平成27年度からの和歌山生協病院、有田市立病院、宇都宮病院の3施設と平成29年度からの伏虎リハビリテーション病院、名手病院、紀北分院の3施設の計6施設</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回社会経済福祉委員会開催</li> <li>・平成29年度委員会年間計画の立案</li> <li>・施設における看護師向け禁煙対策の紹介依頼文書を作成</li> <li>・第1回WLB 合同会議へ参加</li> <li>WLB 参加施設と担当委員、WLB 推進委員、支援者との打ち合わせ</li> <li>支援者よりインデックス調査についての説明</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3回社会経済福祉委員会開催</li> <li>・世界禁煙フォーラム参加（5/27）報告</li> <li>・黒潮140号への掲載文を作成</li> <li>・WLB ワークショップに向けての準備・役割分担</li> <li>・禁煙アドバイザー育成講習会（6/25）参加報告</li> <li>・黒潮140号への掲載文を作成</li> <li>・黒潮掲載原稿について理事を通じて県内施設へ依頼</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第4回社会経済福祉委員会開催</li> <li>・9/15 第2回WLB 合同会議へ参加</li> <li>・9/21、22 WLB 推進ワークショップ開催</li> <li>① WLB の基本的な考え方について</li> <li>② 看護職のWLB インデックス調査及び調査結果の見方について</li> <li>③ WLB 実現のためのアクションプランについて</li> <li>各施設に分かれ、インデックス調査結果の分析から問題、課題を明確にしアクションプランを作成。それに基づいて全体討議。</li> <li>・公開講座：大阪済生会茨木病院 看護部長：田中典子氏 「三方よしの取り組み事例～患者よし・看護よし・経営者よし～」</li> </ul>

12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第5回社会経済福祉委員会開催</li> <li>WLB フォローアップワークショップの役割分担</li> <li>・第3回WLB 合同会議へ参加</li> <li>フォローアップワークショップ（平成30年1月19日開催）プログラムについての打ち合わせ</li> </ul>
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回WLB フォローアップワークショップ参加・協力</li> <li>各施設での取り組みの報告・討議・意見交換</li> <li>・黒潮142号へ和歌山ろうさい病院：本田弥生氏が禁煙への取り組みについて掲載</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第6回社会経済福祉委員会開催</li> <li>・平成29年度事業活動のまとめ</li> <li>・平成30年度事業活動計画（案）の作成</li> <li>・第2回WLB 推進委員会に参加</li> </ul>

#### 2. 看護職の禁煙推進活動

- 1) 和歌山県看護協会会報「黒潮」へ禁煙推進記事を下記の内容で掲載した。

- ① 第140号へ「世界禁煙デーフォーラム2017in 和歌山参加報告」  
「禁煙アドバイザー育成講習会参加報告」
- ② 第142号へ「自施設での職員を対象とした禁煙への取り組み」  
（ろうさい病院 本田弥生氏）

#### 【今後の課題】

1. 看護職の職場定着に向けて、WLB 推進ワークショップへの取り組みの継続
2. 看護職への禁煙推進活動の継続

**【活動目標】**

看護専門職としての生涯学習を支援し、変容する地域・社会のニーズに応え、質の高い看護実践能力を養うために必要な教育の企画・立案・運営および評価をおこなう。

**【活動内容】**

- ・教育委員会開催回数 12回  
研修の企画、立案、運営、評価を行った。
- ・研修開催 31テーマ (34回)
- ・開催場所 看護研修センター29回 ビッグU5回
- ・研修開催における活動報告  
新人研修は、例年同様に「看護技術」「感染予防」「倫理とコミュニケーション」「医療安全」「フィジカルアセスメント」を開催した。ただし、現場での看護実践の習熟の進捗を考慮して開催時期を設定した。  
また、「看護技術」の技術項目の中に経鼻的胃管栄養法があったが、その中の胃管挿入に関してはどの施設も医師が実施していることが多い。そのため、次年度からは胃管挿入に代わり吸引の技術を習得できるように変更した。  
少子・超高齢・多死社会を迎えるにあたり、暮らしと医療を支える看護提供システムの構築が求められている現状をふまえ、ジェネラリスト研修では、がん・終末期医療、認知症における看護の研修を開催した。  
また、専門領域の研修は前年同様に、小児・母性・精神・在宅の研修を開催した。それ以外に「急変を察知するフィジカルアセスメント」「接遇およびクレーム対応」は予定の応募を上回る研修であった。  
フィジカルアセスメントでは、臨床推論の重要性を知り、実践に活かせる学びを習得したい。また、接遇では、クレームへの対応方法を身につけ、患者満足度の向上につなげていきたいという研修生の学習意欲が感じられた。  
例年開催しているにもかかわらず今年も人気のあった研修は、「これだけは徹底して感染予防に努めよう」「人工呼吸器ケアが好きになる」であった。研修生の興味を引けるような研修名をつけたことも人気の要因になったと思われる。  
看護管理者研修では、2016年に改訂された「看護業務基準」に沿った看護の提供を、管理者としてどのように実践していくかを考える機会となるよう研修を開催した。「人材育成 ～部下の力を引き出

そう～」[管理者が学ぶ幸せ交渉術]は、自分自身を知り、責任と自覚を持ちながら人的資源を活用していくことを再認識できる内容であった。

- ・その他の活動
- ① 潜在看護師復職支援研修における看護技術指導担当 2回
- ② 研修オリエンテーション用パワーポイント作成  
研修当日の研修オリエンテーションの効率を上げるために、研修生にはパワーポイントでお知らせするよう統一した。今までは研修担当者が、シナリオに沿って研修開始時に口頭で実施していた。オリエンテーション内容の中にも重要度に開きがあり、重要度の高いものは現状通り口頭でお知らせするが、それ以外は視覚的に知らせることにした。県研修センターとビッグUの2か所の会場向けに作成した。
- ③ 研修会日誌を手書きからパソコン入力に変更  
研修毎の報告を従来は手書きの日誌であったが、業務効率を上げるためにパソコン入力に変更した。後日の委員会において、研修担当者からの報告があった後、委員会としての評価を記載するにも能率向上させることができた。
- ④ 平成30年度新人技術研修に使用するチェックリスト修正  
静脈注射・膀胱留置カテーテル・吸引を書式統一小冊子にまとめた。

**【今後の課題】**

研修の企画に対しては、時代のニーズに見合った内容であり、会員の要望を反映させたものでなければならぬと実感している。研修時に回収しているアンケートの「今後研修会で学習したい内容」の結果を集約し、職種・職位・経験年数を考慮した研修を企画していく。また、研修方法は講義だけではなく、研修生の印象に残る参加型とし、講師とも調整を図りながらより実践に活用できる研修にしていきたい。  
次年度は、日本看護協会の「看護師のクリニカルラダー（日本看護協会版）」に準じた研修の設定も意識すべきであると考えている。和歌山県でも各病院・施設において「看護師のクリニカルラダー（日本看護協会版）」が導入されるであろうことを予測し、その支援としての研修の企画にあたりたい。  
運営に関しては、研修生の感想をひろい上げ、研修環境を整えるための努力をしていきたい。

**【活動目標】**

1. 和歌山県看護協会の動向、最新の情報をタイムリーに提供
2. 読者参加型の紙面づくり
3. 会員サービスの充実・向上のための広報活動

**【活動内容】**

1. 年間8回の会議を開催した。
2. 和歌山県看護協会会報「黒潮」を4回発行した。(第139号～142号)
3. 和歌山県看護協会の動き、「地域連携のコーナー」、「訪問看護ステーションだより」、「医療安全数珠つなぎ」などのコーナーを継続した。
4. 「専門・認定看護師のコーナー」を1年間(合計3回)のシリーズ化で掲載した。
5. 「黒潮」の表紙写真やイラストを読者の方から頂き掲載した。
6. 全体的により見やすい紙面となるようデザインを変更した。
7. 和歌山県看護協会ロゴマークを作成した。

**【今後の課題】**

1. 「黒潮」がより読者参加型の紙面となるよう、意見・要望を広く読者の方に求めたい。方法として、プレゼントコーナーのアンケート部分に、今後紙面に掲載して欲しい内容等を記載していただくことも検討していきたい。
2. 和歌山県看護協会の更なる充実・発展のためには、会員数の維持・獲得は大きな課題である。方法として「黒潮」やホームページで、協会の魅力や取り組みをアピールしたい。
3. ホームページ及びモバイル版運営に関して内容の検討・提案を行う。新会員情報管理体制導入への効果的な広報活動を考え、会員サービスの充実と向上を図る。
4. 紙面の内容をより読者が興味を持てるよう検討していきたい。  
・特定分野について3回(1年間)シリーズでの掲載を継続し、知識を深めるために活用していきたい。  
・今後予定されている研修の告知や、研修後アンケート結果の報告等を記載するなど検討していきたい。  
・各病院や施設の取り組んでいる最新の情報を記載依頼するなどの取り組みを行いたい。



【活動目標】

1. 医療安全管理者の養成
2. 医療安全管理者養成研修修了者のスキルアップ
3. 医療安全管理者ネットワークの拡大

了証発行は行わない。研修シリーズ7回中3回の公開講座を実施し、のべ39名の参加者であった。

平成30年度からは、医療情勢の変化に対応できるよう「患者・家族参加型医療安全とは」を追加し、研修回数を8回とした。

【活動報告】

委員会開催回数 11回

1. 医療安全管理者養成研修の開催

平成29年度は、下記実施一覧のとおり7回開催した。研修定員50名のところ88名の応募があり、調整の結果77名が受講した。昨年度より繰り越しの1名を含めて77名が医療安全管理者養成研修を終了した。平成29年度は平成30年度に1名の繰り越しとなった。平成30年度受講者からは翌年度への繰り越し受講後の修

2. 医療安全管理者養成研修修了者に対するフォローアップ研修の開催

フォローアップ研修を1回開催した。(下記実施一覧参照) アンケート結果から「講師が話してくれた項目をもっと深く研修してほしい。」「臨床コミュニケーションスキル」や「患者のいないDNAR」等もっと深く学びたい。「院内の再確認とマニュアルチェックが必要と感じた」という意見があった。

また、フォローアップ研修と同日に開催していた交流会は中止とし、グループワークを以て各病院の情報交換の場とした。

平成29年度医療安全管理者養成研修・フォローアップ研修 実施一覧

シリーズ参加者：77名（修了者：76名）H28年度繰越修了者1名

	日 程	内 容 (予定)	講 師	参加者
1	6月9日(金)	医療におけるリスクマネジメントの基本的な考え方とリスクマネジャーの役割 等	中山 美代子 和歌山県立医科大学附属病院 医療安全推進部	77名
2	7月31日(月)	人間工学とヒューマンファクター	楠本 茂雅 ペルランド総合病院ケリティー管理センター医療安全管理室・感染管理室 副部長	77名
3	公開講座① 8月30日(水)	チーム STEPPS 「チームで安全に働くためのフレームワークを学ぶ」 効果的な医療安全研修の実践とその評価	宮崎 浩彰 関西医科大学 医療安全管理センター副センター長 第3内科 准教授	77名 + 19名
4	9月20日(水)	現場で活かす事例分析 RCA	森田 恵美子 公立瀬戸旭看護専門学校 副校長	
5	10月20日(金) 公開講座②	医療安全管理と関連法規・医療訴訟の動向 医療事故と医療訴訟・判例の実態・法的責任	稲葉 一人 中京大学 法科大学院教授	76名 + 11名
6	11月16日(木) 公開講座③	レジリエンス・エンジニアリング 「Safety I ~ Safety IIへ 成功体験から学ぶ」	長谷川 剛 上尾中央総合病院 情報管理部部長	77名 + 9名
7	12月19日(火)	医療メディエーション	森田 恵美子 公立瀬戸旭看護専門学校 副校長	77名
-	平成30年 2月13日(火)	フォローアップ研修 「患者・家族参加型医療安全とは」	辰巳 陽一 近畿大学医学部附属病院 安全管理部 教授	82名

3. 医療安全に関する情報の発信

和歌山県看護協会ホームページの「医療安全情報」に各医療機関における医療安全への取り組みを掲載し、平成29年度は4回更新した。(平成26年より12回掲載)

掲載月日	施設名	テーマ
2017年5月2日	有田市立病院	転倒転落防止対策
2017年7月18日	医療法人南労会 紀和病院	医療安全推進のために
2017年11月30日	日本赤十字社和歌山医療センター	医療安全推進室
2018年2月26日	和歌山ろうさい病院	安全は名前確認から

【今後の課題】

- ・医療安全の質を向上するために、協会ホームページにおける医療安全情報の閲覧を促進する。
- ・医療チーム・在宅分野の医療安全管理者の育成を視野に入れた活動を支援していく。
- ・医療情勢に即した医療安全管理者養成研修の充実を図る。

【活動目標】

1. 災害支援ネットワークシステムの周知
2. 災害支援ナースの養成
3. 災害支援ナースの登録・推進

【活動内容】

1. 災害看護対策委員会開催：10回
2. 災害支援ネットワークシステムの周知
  - 1) 和歌山県看護協会災害看護支援マニュアルの作成
  - 2) 災害時支援マニュアルのポケット版作成
3. 災害支援ナースの養成
  - 1) 災害看護研修
    - (1) 災害支援ナースの第一歩 ～災害医療と看護（基礎編）  
平成29年7月19日、20日 受講者71名 修了者71名
    - (2) 災害看護Ⅱ

- 平成29年9月4日、5日 受講者27名 修了者27名
- (3) 災害看護フォローアップ研修…災害支援ナース登録者に再研修  
紀北：平成29年11月13日 受講者37名  
紀南地区で初めて開催：平成29年11月14日 受講者31名  
アンケート結果：紀南地区での開催を良かったと59.3%の方が回答をしている。
  4. 災害支援ナースの登録・推進
    - 1) 災害支援ナースの登録推進  
平成29年度登録登録者者 172名（内、新規登録 9名）

【今後の課題】

1. 災害時の受援体制の構築
2. 災害看護支援ナースの育成と登録推進（平成30年度登録手続き）
3. 災害看護支援マニュアルのポケット版作成

【活動目標】

看護研究学会の円滑な運営に向けての準備、調整を行う

【活動内容】

委員会回数 13回  
看護研究学会

日程：平成30年2月24日（土）  
場所：和歌山県民文化会館 小ホール 特設会議室  
参加者：301名

1. 審議決定事項
  - 1) 看護研究学会のテーマの検討  
本年は「家族看護」をテーマに特別講演・セミナーを企画した。それにあわせて学会テーマを「その人らしさを支える看護 - 病気や障害を持つ人の家族の理解 -」とした。
  - 2) 特別講演内容および講師選定  
参加者に家族看護についての学びを深めてもらうため、特別講演、セミナー1、2で企画した。特別公演は、日本福祉大学看護学部 学部長 山口桂子先生に「病気や障害を持つ人の家族への看護」のテーマで講演していただいた。
  - 3) セミナーの内容および講師選定  
セミナー1は、地方独立行政法人 加古川市民病院機構 加古川中央市民病院 家族支援専門看護師 永富宏明先生に「退院支援、家族の意思決定支援」のテーマでお話をいただいた。セミナー2は、近畿大学医学部附属病院 家族支援専門看護師 藤野崇先生に「対応困難な家族への関わりについて」のテーマでお話をいただいた。
  - 4) 示説発表運営方法の検討  
昨年は研究者の発表の後で質疑応答をする形式で行ったが、本年は研究者の発表を行わず、指定時間内に自由に学会参加者と研究者が質疑応答できる形式へ変更した。
  - 5) 査読者決定および査読判定基準の検討、査読結果の送付  
発表演題数は28題（口演15題、示説13題）応募があり、全て査読を通して演題発表に至った。  
昨年と同様に平成29年度は日本看護協会の基準に則り、施設名のアルファベット表示を中止した。  
昨年定めた利益相反の有無についての基準に則り、全演題について発表時に利益相反の有無について明記してもらった。

- 6) プログラムの検討および作成、使用研修室の検討  
平成29年度の開催は和歌山県民文化会館であったため、使用する会場を参加者の動線を考え検討した。  
当日、特に混乱は見られなかった。
- 7) 抄録集の検討および作成、印刷依頼
- 8) 運営のしおりの検討および作成  
運営のしおりを、和歌山県民文化会館での開催用で作成した。
- 9) 広報活動の検討（ポスター制作含む）  
10月5日に会員に郵送した。
- 10) 次年度の看護研究学会のテーマ、特別講演および講師の検討、看護研究学会の開催会場の検討  
平成30年度の研究学会テーマは「その人らしさを支える看護 - ともに考えるエンドオブライフ -」とし、特別講演とシンポジウムを企画することとした。  
開催場所は和歌山県民文化会館、開催日程は平成31年2月9日（土）とした。

【今後の課題】

アンケート結果より、特別講演、セミナー、口演発表の内容に関して、「とても満足」「満足」と回答したものの割合は88%以上であったのに対して、示説発表の内容に関しては、68%にとどまった。記述内容や運営状況の分析より、時間の経過に伴い参加者数の減少がみられ、参加者数の減少に伴い活発な質疑応答が困難となっていたとみられる。次年度は運営方法について検討が必要である。

# 特別委員会報告

## 「まちの保健室」運営委員会

委員長 橋爪千晶

### 【活動目標】

1. 「まちの保健室」開催の定着化を図り、地域住民の健康に対する認識と看護協会活動の理解を高める。
2. 地域住民の生活習慣見直しのきっかけづくりや改善に向けての支援ができる。
3. 高校、短大や看護の日のイベント等での開催を通じて、看護への関心を高め人材育成につなげる。

### 【活動内容】

1. 活動回数：13回（「まちの保健室」健康チェック事業開催7回 委員会議開催6回）
2. 開催場所：セントラルシティ和歌山4回、向陽高校1回、信愛女子短期大学1回、刑務所1回
3. まとめ

今年度の「まちの保健室」への参加者総数は581名、昨年度より53名増加した。これは複数回のアナウンスを行ったことと、まちの保健室の開催場所の定着化や地域住民の健康に対する関心が高まったためと考えられる。リピータ率は、15.2%で昨年度と同程度である。

参加者の年齢は、60歳以上が多く、各計測項目では、前年度と同様に骨密度測定が好評であり、特に女性に関心が高かった。健康相談では、今年度も各職能や栄養士の方々の協力を得て、総合的かつ専門的な説明を行うことができた。また、内容は血圧、骨密度についての相談が多数を占め、資料を用いての効果的な指導

がなされ好評であった。その他の意見として、開催回数を増やしてほしいや血管年齢測定・視力検査の希望があり、今後の検討事項とする。

隔月での運営委員会では、協力員からの意見や評価・反省の他、アンケートで寄せられた意見について検討した。また、開催運営には毎月12名程度の人員が必要で、委員の他に各施設やセカンドキャリアからの協力委員に支援をいただいた。

今年度も信愛女子短期大学・向陽高校の2校で健康チェック事業を開催し、両校で241名の参加者があった。白衣体験をしたり、聴診器で実際の心音や脈拍を測定し、写真を撮ったりして好評であった。また、看護職や医療職への関心が高められるような働きかけを今後も継続していきたい。

### 【今後の課題】

1. アンケートでは看護協会を知らないと答えた方は多かった。次年度も引き続き看護協会活動の広報を行っていく必要がある。リビング和歌山への開催についての掲載やポケットティッシュの配布、開催中施設の入り口付近への掲示やアナウンスも継続していき、(公社)看護協会の理解と認識を高めていく。
2. 次年度も高校や短大での開催を計画し看護への関心を高めることで人材育成につなげていく。
3. 健康チェック事業を充実していけるような協力員体制を考慮したい。
4. 新しい地域での健康チェック事業を考えて行きたい。

## ナースセンター事業推進委員会

委員長 高垣通代

### 【活動目標】

看護職員の就業促進と確保及び離職防止対策のため、県行政やハローワーク等との連携を密にし、再就業者の増加を図ると共に、看護職員の資質の向上を図る。

### 【活動内容】

1. 委員会開催回数 6回
2. ナースセンター事業の活性化及び就業促進  
ハローワーク（和歌山、田辺）にて「ナースのお仕事相談」を開催  
開催総数は：47回、来所者：66人（実数59人）  
就業決定（常勤・非常勤・臨時）：30人 就業率50.8%

3. 再就業促進研修  
開催日 平成29年11月16日  
参加者数 18名  
病院及び施設参加数 10施設
4. 「看護の心」普及啓発事業に参加
5. その他関連事業に協力参加  
まちの保健室等 8回

### 【今後の課題】

1. ナースセンター事業の普及及び啓発
2. 相談窓口の充実
3. 潜在看護職員の届出制度の普及及び啓発

## 認定看護管理者教育運営委員会

委員長 岡本恭子

### 【活動目標】

認定看護管理者教育課程（ファーストレベル・セカンドレベル）の実施および改善のための検討をおこない、教育課程の充実と推進を図る。円滑な研修の運営をおこない、評価し、次年度に活かす。

### 【活動内容】

1. 回数：運営委員会5回  
認定看護管理者教育課程開講式および閉講式運営4回  
平成28年度セカンドレベル修了者の看護管理実践報告会運営各研修の開講式、閉講式には委員は原則全員参加とした。
2. ファーストレベル教育課程受講者の募集、受講者決定および修了者の確定  
56名の応募者のうち、選考基準に則り募集定員50人の一割増である55名の受講者を決定した。6月21日から9月22日まで7教科150時間を実施した。途中、7月18日付けで1名の辞退者がでたが、閉講式では個々に研修での学びと今後の課題

について発表を行い、54名が修了した。

3. セカンドレベル教育課程受講者の募集、受講者の決定と修了者の確定  
当初21名の応募者であり、追加募集を行うが追加応募者はいなかった。選考基準に則り21名の受講者を決定した。9月28日から12月27日まで5教科180時間を実施した。研修最終日に教科目で学習した内容を統合・活用し、自施設で取り組む看護管理実践計画を発表した。21名が修了した。
4. 平成29年度セカンドレベル教育課程の講師選定、公開講座の決定  
単元の講師と2教科3つの公開講座を決定した。
5. 平成30年度教育課程の開催日程と募集期間の決定、講師の選定について  
ファーストレベル研修の開催日程と募集期間の決定、講師の選定をおこなった。  
セカンドレベル研修の開催日程と募集期間の決定、講師の選定をおこなった。



認定看護管理者教育課程（ファースト・セカンド）募集要項内容、学習要項確認と必要時訂正をおこなった。

**【今後の課題】**

- ・ファーストレベル受講予定者に向けて準備となる研修受講の奨励

- ・ファーストレベル修了者のフォローアップ
- ・セカンドレベル修了の1年後看護管理実践未報告者に対する看護管理実践発表の機会提供
- ・認定看護管理者教育カリキュラム基準改正に伴う学習要項、研修内容の検討、見直し

**認定看護師フォローアップ委員会**

委員長 芝田里花

**【活動目標】**

1. 和歌山県内に在籍する認定看護師が、認定看護師として自律して日々の活動が実践できるよう支援する。

**【活動内容】**

1. 委員会開催：4回開催
2. 認定看護師フォローアップ研修会  
日時：平成30年2月10日（土）13：00～17：00  
場所：和歌山県看護研修センター 大ホール 受講生：82名  
目的：1. 和歌山県内の認定看護師としての役割を認識し、今後の活動を考えることができる。  
2. 和歌山県内の認定看護師の連携を強化する  
テーマ：地域包括ケアにおける認定看護師の役割

講師：谷口 孝江氏

（堺市立総合医療センター 副院長・看護局長）

今年度より認定看護師更新時のポイント対象となる研修にした。

評価：違った分野の認定看護師とも意見交換ができ、ネットワークの構築にもつながった。

**【今後の課題】**

- 1) 認定看護師が役割を認識し、和歌山県の看護の質の向上に寄与することができる。
- 2) 和歌山県内の認定看護師が分野を超えてネットワークづくりができる。
- 3) 新たに資格を取得した認定看護師の支援をする。

**その他委員会報告**

**WLB推進委員会**

推進者 山本喜久子

**【活動目標】**

地域を主体に看護職のワーク・ライフ・バランス（WLB）の実現に取り組み、看護職がいきいきと働き続けられる環境づくりを支援する。

**【活動内容】**

- 1 推進委員会2回、参加施設推進委員合同会3回、WLB推進ワークショップ2日間、フォローアップ・ワークショップ1日間
- 2 参加施設 6施設（和歌山生協病院、宇都宮病院、有田市立病院、伏虎リハビリテーション病院、名手病院、和歌山県立医科大学附属病院紀北分院）

- 3 「WLB推進ワークショップ」において、参加施設の取り組みに対する助言・支援、ワークショップの企画運営
- 4 ワークショップ開催（公開講座）  
開催日：平成29年9月21日（木）、9月22日（金）  
場 所：看護研修センター
- 5 フォローアップ・ワークショップ開催（公開講座）  
開催日：平成30年1月19日（金）  
場 所：看護研修センター
- 6 アドバイザーとして参加施設への施設訪問の実施

**認定看護管理者会**

委員長 高岸壽美

**【活動目標】**

1. 県内において質の高い組織的看護サービスの提供を目指すために看護管理者を支援する。
2. 県内の認定看護管理者間の交流を深め、ネットワークの構築を図る。

**【活動内容】**

1. 認定看護管理者会議：4回
2. 和歌山認定看護管理者会による出前講義：21回
  - 1) 実施施設：15施設  
2回実施施設：4施設、2施設合同実施：1回
  - 2) 対象者：役職者 主に副看護部長、看護師長、副看護師長等  
人数：10人～13人
  - 3) テーマ

テーマ	組織論	組織分析	看護倫理	診療報酬	安全管理	質保証	人材育成	労務管理
施設数		3	2	3	1	5	4	3

- 4) 評価：
  - ① 活動開始して3年目であるが、毎年申込件数が増加している。（昨年比1.5倍）
  - ② 「看護の質保証」が過去2年間の1件から5件に増加したこ

とは、質の高い看護サービス提供へのニーズの高まりであり、本委員会のめざすところである。

- ③ 民間病院の事務担当者からファーストレベル研修に関する問い合わせがあり、看護管理者教育の必要性が民間病院にも理解されつつある。
3. 認定看護管理者交流会の検証と開催：平成30年1月13日（土）  
特定行為に係る看護師の活用や育成の必要性についての意見交換

**【今後の課題】**

1. 出前講義
  - 1) 中小規模施設からの申し込みを増やす。
    - ① 施設代表者会議等で広報する。
    - ② 申し込み依頼があった際に近隣の医療施設の看護管理者を勧誘するよう依頼する。
  - 2) 成果評価のためのアンケート実施
2. 認定看護管理者交流会  
看護の質向上につながる「特定行為に係る看護師の育成・活用」に関する情報共有と課題の明確化に取り組む。

# 地区支部報告

## 伊都地区支部

支部長 西山 登志子

### 活動目標

1. 地域イベントに積極的に地区支部として参加・協力していく。そこから看護協会の知名度を上げ会員の増員を目指す。

事業名	事業内容	対象者	開催日	参加者数	その他（参加者の反響・主催者の感想）
平成29年度事業 看護週間行事 「1日まちの保健室」	・血圧測定 ・骨密度測定 ・体脂肪測定 ・健康相談 ・栄養指導 ・ストレスチェック ・ロコモ診断	地域住民	5月12日(土)	役員・協力員 12名 参加者 約150名	・健康相談を通し健診の必要性を啓発する事ができた ・「骨密度測定」が好評 ・測定結果より具体的な指導を受けて頂く事、認定看護師の活動も知って頂くよい機会となった ・手洗いチェッカーの活用で感染予防対策の基本である手洗い方法について指導することができた ・看護協会の活動を知って頂くよい機会となった
看護研修会	テーマ： 「ユマニチュードケアを看護実践に活かす」 講師：認知症看護認定看護師 岸田悦子先生	会 員 会	7月1日(土)	役員・協力員 6名 参加者 58名	「ユマニチュード」を今後仕事で活かしていきたいとの意見が多く聴かれた。大変好評であった。
宿泊体験事業 [H29年度子ども冒険村] ボランティア参加	宿泊体験事業での子供のケア	小学5年生 55名 高校・大学生 等スタッフ 25名程度	8月1日(火) ) 8月4日(金)	協力員6名 小学5年生 55名 高校・大学生 他25名	活動中は大きなケガ等の発生もなく無事に終了した。
H29年度 すこやか橋本 まなびの日 - 「1日まちの保健室」	「まちの保健室」 ・血圧測定 ・骨密度測定 ・体脂肪測定 ・女性相談 ・BLSと白衣着衣体験	地域住民	11月27日(日)	役員・協力員 15名 地域住民 404名	協会の知名度アップのため「まちの保健室」として参加し、活動を知って頂くよい機会となった。また、具体的な健康指導や感染予防対策も指導できた。
第12回かつらぎ町 ボランティアまつり 「まちの保健室」	「まちの保健室」 ・血圧測定 ・骨密度測定 ・体脂肪測定 ・女性相談 ・BLSと白衣着衣体験	かつらぎ町 地域住民	1月13日(土)	役員・協力員 11名 地域住民 260名	ボランティア団体との交流を深める事を主旨とするイベントであり、各ボランティア団体、協力校のボランティア活動の展示、体験コーナーもあり町民の方々と共にボランティア活動の実情を知ることができた。 ・看護協会の知名度アップ、活動を知って頂くことができた。
宿泊体験事業 [H29年度ジュニア リーダー研修会] ボランティア参加	宿泊体験事業での子供のケア	小学5・6年生 48名 高校・大学生 等スタッフ 30名程度	3月24日(金) ) 3月27日(月)	協力員 6名 参加者70名 高校・大学生 他30名	活動中は大きなケガ等の発生もなく無事に終了した。
第2回伊都地区支部 施設会員代表者会議	会長・常任理事からの報告 各施設代表者からの質問・要望	支部施設代表者 役員	2月8日(木)	参加者 11名	
役員会	理事会報告・支部運営に関する検討など	支部役員	10回	5名	
今後の課題	1. 他職種との連携を図り、地区支部活動を通して地域住民への健康保持増進に努めていく。 2. 病院・施設・在宅等の連携強化を図り、医療・保健・福祉の向上に努める。				

## 那賀地区支部

支部長 大久保 まさ子

### 活動目標

1. 地区支部活動を通し、会員や地区住民との交流及び情報共有ができる

事業名	事業内容	対象者	開催日	参加者数	その他（参加者の反響・主催者の感想）
看護週間行事 「1日まちの保健室」	血圧・体脂肪・骨密度測定等 健康相談・指導	地域住民	平成29年 5月14日	103名	「看護の日」の啓蒙と住民の健康意識の向上につながった
平成29年度 地区支部集会	平成28年度事業報告・平成29年度事業計画	会 員	平成29年 6月24日	58名	集会前に連盟活動の紹介があった
第1回地区支部研修	テーマ 療養者の「その人らしく」と生きていくために	会 員 会	平成29年 6月24日	79名	施設内看護師が在宅・生活者を意識できた研修であった
老人月間行事 第2回地区支部研修	テーマ ユマニチュードを看護実践に活かす	会 員 会	平成29年 10月14日	72名	現状課題の取り組みに参考になった ユマニチュードを現場で活かしたい等関心度が高い研修であった
第2回施設 代表者会議	日本看護協会・和歌山県看護協会の動向と報告	施設代表者	平成30年 2月6日	17名	
役員会	理事会報告 事業等に関する検討	支部役員	6回	3名	
今後の課題	1. 協会活動を通し看護協会会員数の増加に努める。 2. 病院・施設・在宅等の看護職間の連携強化と多職種間との情報共有に努める。				

和歌山地区支部

支部長 廣瀬 朱実

活動目標

1. 地区支部活動を通して、地域住民の看護協会への理解を深める
2. 地区支部会員に対して、必要な情報を提供する
3. 地区支部会員に対して、看護実践の現場に生かせる研修会を実施する

事業名	事業内容	対象者	開催日	参加者数	その他（参加者の反響・主催者の感想）
看護週間行事 「まちの保健室」	出前健康チェック ・骨密度測定・血流測定・物忘れチェック ・健康・看護・介護相談・妊娠・出産・育児相談等	地域住民	平成29年5月13日(土) セントラル・シティ・和歌山店	一般参加 94名	同じ大手スーパーで開催したためか毎回楽しみに来て下さる方も増えてきた。今後も三職能が協力して開催したい。
平成29年度 地区支部集会	・平成28年度事業報告と決算 ・平成29年度事業計画と予算 ・旧役員・新役員交代と紹介	会 員	平成29年 6月4日(日) 済生会和歌山病院	会 員 81名	昨年度活動報告、今年度事業計画と共に新役員と旧役員の紹介を行い会員の皆様に役員を知ってもらう機会とした。
第1回 研修会	テーマ「終末期の医療・看護の連携～その人らしく生きるためにチームでのかかわり～」 【講師】 古川智子先生 野田優子先生 畑ゆかり先生	会 員 非 会 員	平成29年 6月4日(日) 済生会和歌山病院	会 員 非会員 83名	昨年から引き続きのテーマであり参加者が多かった。病院だけでなく訪問看護ステーションなどの介護施設から参加を得た。
老年看護月間行事 「まちの保健室」	出前健康チェック ・骨密度測定・血流測定・物忘れチェック ・健康・看護・介護相談 ・妊娠・出産・育児相談等	地域住民	平成29年 9月16日(土) セントラル・シティ・和歌山店	一般参加 68名	5月と同開催場所としたが、広報活動が上手く行かず参加者が少なかった。参加者の多くが高齢者であったため、育児相談がなく、今後育児相談を続けていくか検討が必要。
第2回 研修会	テーマ「終末期の医療・看護の連携～その人らしく生きるためのチームでのかかわり～」 【講師】 清水達也先生 茶木美智子先生 新家佳代先生	会 員 非 会 員	平成29年 10月28日(土) 済生会和歌山病院	会 員 非会員 64名	終末期を在宅で過ごすことについて、実際緩和医療に携わる医師の講演があったためか、チーム医療をより感じる事ができる講演会となった。
地区支部施設代表者会	1. 日本看護協会の動向 2. 和歌山県看護協会の動向	施設代表者	平成30年 2月2日(金) 和歌山県看護協会研修室2	施設代表者	日本看護協会、和歌山県看護協会の動きがよくわかった
役 員 会	8回				
今後の課題	1. 「まちの保健室」開催に当たり、開催場所の確保と地域住民の皆様への広報活動に力を入れていきたい。 2. 地区支部会員の皆様のニーズに応じた研修会を企画していきたい。				

海南・海草地区支部

支部長 中野 美枝

活動目標

魅力的な研修会を企画し、会員・非会員に参加を呼びかけ、看護の質向上をめざすとともに、会員数の増加を図る。

事業名	事業内容	対象者	開催日	参加者数	その他（参加者の反響・主催者の感想）
看護週間事業	「1日まちの保健室」 身長・体重・血圧・体脂肪・骨密度測定 健康相談、医療・介護相談 看護週間のアピール	地域住民	平成29年 5月13日(土) 14:00～16:00 とれたて広場	一般参加者112名 役員6名 協力員看護師7名 検査技師1名	J Aさんの協力もあり例年同様に大勢の参加があった。骨密度測定も好評であった。
第1回地区支部研修会	テーマ 「がん診療におけるアドバンスケアプランニングの実践」 講師 神戸大学医学部付属病院 乳腺内分泌外科科長 谷野 裕一先生	会 員 非 会 員	平成29年 6月17日(土) 13:00～15:30 看護研修センター	会 員 非会員 3名	「外来には看護が必要な人がいる。患者に関心を寄せる。ケアをとおして患者を知る。患者が自分で考えられるように対話を重ねる。医師の視点、看護の視点を共有する。看護と医療は並列である。」印象に残った言葉であった。
平成29年度 地区支部集会	平成28年活動報告 平成29年度事業計画	会 員	平成29年 6月17日(土) 看護研修センター	会 員 91名	
老人看護月間行事	海南市民健康まつり 脳トレトレーニング体操 豆つかみ かなひろい	地域住民	平成29年 10月15日(日) 9:00～15:00 海南市保健福祉センター	一般参加者 319名 役員7名 協力員 5名	海南市の恒例のイベントであり、健康意識も高くなってきている。年齢を問わず楽しく参加された。
第2回地区支部研修会	テーマ 「施設での看取りについて」 講師 カルフル・ド・ルボ印南 看護介護師長 佐藤 房子	会 員 非 会 員	平成29年 12月9日(土) 13:30～15:00 看護研修センター	会 員 非会員 役員 7名	施設でその人らしい看取りに向けた取り組みを事例から学ぶことができた。
施設代表者会	県看護協会理事会報告 各施設代表者からの質問、要望	施設代表者	平成30年 2月2日(金) 10:00～11:30 看護研修センター	役員5名 施設代表者 8名	
役 員 会	理事会報告 地区支部事業に関する検討	地区支部役員	平成29年 7月12日(水) 10月25日(火) 平成30年 2月21日(水) 3月22日(木) 海南医療センター	7名	
今後の課題	1. 多職種と連携を図り、地域住民の健康増進に貢献する。 2. 協会活動を通じて看護の質向上と会員数の増加をめざす。				



## 有田地区支部

支部長 西原 均

### 活動目標

1. 看護協会の活動を通して、地域住民に看護職への認知、理解を深める。
2. 広報活動等により新会員の増加に努める。

事業名	事業内容	対象者	開催日	参加者数	その他（参加者の反響・主催者の感想）
看護週間行事 「1日まちの保健室」	健康チェック 血圧測定・体重測定体脂肪測定・体年齢測定 保健指導、健康相談	地域住民	平成29年 5月13日（土） 9:30～12:00	地域住民 50名	悪天候だったが、声掛けで立ち寄る人が多かった。保健所からの「がん検診啓発パンフレット」の配布も行い、受診率向上の啓発も同時に行った。
平成29年度 地区支部集会	平成28年度事業報告及び会計報告 平成29年度事業計画及び予算報告	会 員	平成29年 7月8日（土） 13:30～13:50		
第1回研修会	認知症患者を支えるためにできることを考える 和歌山県立医科大学付属病院 精神神経科 山田 信一先生	会 員 非 会 員	平成29年 7月8日（土） 14:00～15:30	83名	認知症看護に関する関心が高く、参加者は熱心に聴講する姿が見えた。研修内容は様々なデータや図表を用いて詳しく説明され、ひとつひとつ納得しながら聞くことができた。
老人看護月間行事	健康チェック 血圧測定・骨密度測定 保健指導、健康相談	地域住民	平成29年 11月5日（日）	120名	広川町健康祭りに参加した。骨密度測定は毎回好評で予定を上回る参加者数であった。特に高齢者は骨密度に関する関心が高く、正常値や普段から何に気を付ければ良いのか等の質問が多かった。
施設代表者会	会長・常任理事からの報告 各施設代表者からの質問・要望	施設代表者	平成30年 2月9日（金） 15:00～16:00	9名	
第2回研修会	認知症患者の看護 ～認定看護師に聞いてみよう！現場で役立つ 関わり方～ 国立病院機構 和歌山病院 認知症看護認定看護師 堅田 弥生先生	会 員 非 会 員	平成30年 2月17日（土） 13:30～15:30	72名	事前に各施設から認知症看護に関する質問を聞いて講師に渡していたので、質問に沿った学びの多い研修内容となった。
役 員 会	理事会報告 支部運営に関する検討	役 員	4回/年 (7月・9月・12月・2月)	7名	
今後の課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域内で多職種との連携を強化し、看護を通じて地域の医療・保健・福祉の向上</li> <li>2. 看護の質向上を共にめざすことのできる会員増加</li> <li>3. 会員のニーズを捉えた、魅力ある研修会の実施</li> </ol>				

## 日高地区支部

支部長 空山直子

### 活動目標

1. 魅力ある研修会を企画し、地域における看護の質向上ならびに会員数の増加に努める。
2. 協会活動を通じて地域住民の健康増進に貢献する。

事業名	事業内容	対象者	開催日	参加者数	その他（参加者の反響・主催者の感想）
看護週間行事 「1日まちの保健室」	血圧・体脂肪・骨密度測定 保健指導 看護相談	地域住民	5月13日（土）	63名	看護協会の活動を知っていただく良い機会となった。今後も、多くの方に参加していただけるようPRに努めたい。
平成29年度 地区支部集会	平成28年度事業報告 平成29年度事業計画	会 員	7月1日（土）	47名	
第1回研修会	テーマ「認知症の病態・治療」 講師 和歌山県立医科大学 助教 山田信一先生	会 員 非 会 員	7月1日（土）	53名	前年度は認知症看護に関する内容の研修を実施しており、今年度は病態・治療に関する知識を深めることができ、興味ある内容で良かったとの感想が多く聞かれた。
老人看護月間行事	印南かえるのフェスティバル 血圧・体脂肪・握力・酸素飽和度測定 保健指導	地域住民	11月19日（日）	112名	住民の健康に対する関心が高く、多くの方に参加していただくことができた。握力測定は好評であった。また、看護協会の活動知っていただく良い機会となった。
第2回研修会	テーマ「乳がんの診断・最新治療について」 講師 和歌山県立医科大学 助教 宮坂美和子先生	会 員 非 会 員	1月20日（土）	51名	乳がんの診断・治療に関する知識を深めることができた。患者指導に役立てることができる内容であった。
役 員 会	理事会報告 各行事の打ち合わせ	役 員	4回	8名	
施設代表者会議	日本看護協会の動向 和歌山看護協会事業について 各施設代表者からの質問・要望	地区支部 施設代表者	2月14日（水）	14名	
今後の課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 活動を通して、地域の保健・医療・福祉の連携を深める。</li> <li>2. 会員数の増加を目指す。</li> </ol>				

## 田 辺 地 区 支 部

支 部 長 山 根 八 栄 子

### 活動目標

1. 会員相互の連携をはかり、地域における看護の質の向上を目指す。
2. 看護協会の活動を通して、地域住民に看護職への理解を深める。

事業名	事業内容	対象者	開催日	参加者数	その他（参加者の反響・主催者の感想）
看護の日事業	看護の日のPR 血圧測定・体脂肪測定・健康相談	地域住民	平成29年 5月13日(土) 9:00～12:00	無	悪天候のため中止 会場でのアナウンスを実施
平成29年度 地区支部報告会	平成28年度事業報告 平成29年度事業計画	会員	平成29年 7月1日(土) 12:45～13:15	37名	
第1回地区支部研修会	テーマ：「プラス思考への心理学」 ～笑顔自律訓練法で心も身体もリラックス～	会員 非会員	平成29年 7月1日(土) 13:30～15:30	60名	心をリラックスさせ笑顔を作ることで職場が元気になる。顔面体操、瞑想法などを実際に体験した。会場は笑い声でいっぱいのリフレッシュになった。
第2回研修会	テーマ：最強のコミュニケーション 「なんでやねん力！」	会員 非会員	平成29年 10月14日(土) 13:30～15:00	72名	職場に必要なコミュニケーション能力の向上について楽しく学ぶことができた。参加者からの評価が最高だった。
老人看護月間	血圧・体脂肪測定・健康相談に応じ地域住民との交流をはかる	地域住民	平成29年 11月18日(土) 9:00～12:00	無	悪天候のため中止 会場でのアナウンスを実施
第3回地区支部研修会	看護研究発表会	会員 非会員	平成30年 3月3日(土) 13:30～16:00	79名	6施設6題の発表があり、活発な意見交換ができた。南和歌山医療センター急性・重症患者看護専門看護師 井上潤氏による講評と講義があり、勉強になったとの意見があった。
役員会	理事会報告	役員	平成29年 7月1日 10月14日 平成30年 3月3日	9名 5名 6名	
今後の課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 魅力ある研修会の企画及び、看護協会活動をアピールし、会員数の増加に努める。</li> <li>2. 地区支部活動を通じて、各施設の連携を深め、地域住民の健康増進に努める。</li> </ol>				

## 新 宮 ・ 串 本 地 区 支 部

支 部 長 貴 志 福 子

### 活動目標

1. 地区支部活動を通じて各施設の連携を深め、地域の看護の質向上に努める。
2. 地区支部研修会の充実を図り、会員増に繋げる。

事業名	事業内容	対象者	開催日	参加者数	その他（参加者の反響・主催者の感想）
1日まちの保健室	血圧測定・体脂肪測定 健康相談等	地域住民	平成29年 5月13日(土)	150名	幅広い年齢層の方が自分の血圧や体脂肪値を知ること、健康について興味を示した。日常生活のアドバイスも行った。
第1回研修会	畿央大学 健康科学部 看護医療学科 老年看護学領域教授 山崎尚美先生 「認知症ケアの最前線」	会員	平成29年 8月5日(土)	46名	講演をお聞きした後グループワークを行って意見交換した。 患者への対応を振り返り、本人主体（パーソンセンタードケア）の理念のもと多角的にアセスメントし、ケアの質を向上させることを改めて考える機会となった。
老人看護月間事業	血圧測定・体脂肪測定 健康相談等	地域住民	平成29年 11月5日 太地浦くじら祭り	120名	くじら祭りに来られた地域住民に対し、健康を意識していただく機会となった。
第2回研修会	アルパ奏者 PAPI 武内を中心に編成した和歌山産フォルクローレバンド PAPIRIO' n の音楽鑑賞会	会員	平成30年 2月17日(土)	24名	日頃の業務を離れて、音楽の持つリラックス効果から癒しを得る目的として実施した。ゆったりできたという意見が多かった。
支部役員会	理事会報告、各事業の打合せ・振り返り	支部役員	4回/年 (6月・9月・12月・2月)	7名	
施設代表者会議	日本看護協会の動向、和歌山県看護協会事業について等 報告・説明	施設代表者	平成30年 2月26日(月)	13名	古川会長と山本常任理事からの報告と説明の後、意見交換を行った。 研修内容や管理者育成についての意見が出された。
今後の課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研修の充実。地区支部活動を通じて各施設の連携を深め、地域の看護の質向上に努める</li> </ol>				

## 平成30年度 役員および推薦委員などの選任について

### 改選役員・推薦委員候補者一覧

役職名	氏名	所 属	備 考
会 長	古 川 紀 子	和歌山県看護協会	推薦委員会推薦
副 会 長	石 本 千 珠	県立高等看護学院	推薦委員会推薦
常任理事	山 本 喜久子	和歌山県看護協会	推薦委員会推薦
地区理事(支部長兼任) 伊都地区	糴 谷 博 子	和歌山県立医科大学附属病院 紀北分院	推薦委員会推薦
地区理事(支部長兼任) 那賀地区	藤 本 美 幸	公立那賀病院	推薦委員会推薦
地区理事(支部長兼任) 海南・海草地区	楠 岡 誠	海南医療センター	推薦委員会推薦
地区理事(支部長兼任) 有田地区	松 下 津也子	湯浅保健所	推薦委員会推薦
地区理事(支部長兼任) 日高地区	小 松 香世美	国保日高総合病院	推薦委員会推薦
地区理事(支部長兼任) 田辺地区	鈴 木 正 代	田辺中央病院	推薦委員会推薦
准看護師理事	狩 谷 勇 人	中谷病院	推薦委員会推薦
監 事	澤 越 純 子	自宅	推薦委員会推薦
推薦委員	日 裏 明 美	岩出保健所	推薦委員会推薦
推薦委員	山 本 昌 代	湯浅保健所	推薦委員会推薦
推薦委員	宮 本 靖 代	橋本市民病院	推薦委員会推薦
推薦委員	東 山 好 美	県立医科大学附属病院	推薦委員会推薦
推薦委員	村 上 きみよ	紀南病院	推薦委員会推薦
推薦委員	上 中 まゆみ	国保野上厚生総合病院	推薦委員会推薦
推薦委員	上 田 裕 子	特別養護老人ホーム カルフール・ド・ルポ	推薦委員会推薦
推薦委員	柏 谷 恵 子	橋本市訪問看護ステーション	推薦委員会推薦

### 平成31年度 代議員推薦者名簿

	氏 名	職 能 ・ 地 区 名	所 属
1	松 下 津也子	保健師	湯浅保健所
2	片 山 祐 理	助産師	和歌山県立医科大学附属病院
3	廣 瀬 朱 実	和歌山地区(看護師)	済生会和歌山病院
4	河 村 真由美	有田地区(看護師)	県立こころの医療センター
5	岩 本 真 紀	日高地区(看護師)	北出病院
6	狩 谷 勇 人	准看護師	中谷病院

### 平成31年度 予備代議員推薦者名簿

	氏 名	職 能 ・ 地 区 名	所 属
1	小 川 政 予	保健師	自宅
2	慈 幸 奈 美	助産師	日本赤十字社和歌山医療センター
3	西 山 孝 枝	和歌山地区(看護師)	中谷病院
4	森 田 和 也	有田地区(看護師)	県立こころの医療センター
5	小 川 美 知	日高地区(看護師)	北出病院
6	玉 置 佳 代	准看護師	介護老人保健施設 和佐の里